

子どもが元気に育つまちづくり
東日本大震災復興プラン提案競技
審査結果 記者発表

日時 2011年8月30日(火)午後2時より3時まで

場所 (公財)日本ユニセフ協会 ユニセフハウス 1階ホール
〒108-8607 東京都港区高輪 4-6-12 ユニセフハウス
http://www.unicef.or.jp/about_unicef/about_hou_ac.html

【進行予定】

挨拶：

こども環境学会会長 小澤紀美子

提案競技について：

提案競技実行委員会委員長 仙田満

審査結果について：

審査委員長 和田章

受賞作品発表：

こども環境学会事務局 中山豊、井上寿

審査講評など：

審査副委員長 小澤紀美子

審査副委員長 早水研

質疑応答

受賞作品閲覧

最優秀賞 (Gold)、優秀賞 (Silver) を展示

**子どもが元気に育つまちづくり
東日本大震災復興プラン提案競技
の報告について
(審査結果の公表)**

2011年8月30日

こども環境学会では、東日本大震災に際して、東日本大震災支援にかかる行動計画「子どもの参画による、子どもにやさしいまちの再生を目指して」を作成し、被災地の復興支援活動を推進しておりますが、その一環として日本ユニセフ協会の協力をいただいて「子どもが元気に育つまちづくり 東日本大震災復興プラン国際提案競技“知恵と夢”の支援」を実施しました。

応募作品の提出を締め切り（7月15日にカテゴリ4締切、8月15日にカテゴリ1、2、3締切）、8月28日（日）に審査委員による審査を終えましたので、本日ここに、審査結果を発表いたします。

復興プラン提案競技の詳細については、下記のこども環境学会ホームページをご参照ください。すべての応募作品をホームページに掲載しております。

こども環境学会ホームページ：<http://www.children-env.org/>

震災支援専用サイト：<http://www.children-env.org/sinsai/?lang=japanese>

また9月25日より建築会館にて展示会、プレゼンテーション、作品集披露などを行いますので、ぜひお集まりいただくと幸いです。

敬具

2011年8月30日

公益社団法人こども環境学会

会長 小澤紀美子

提案競技実行委員会 委員長 仙田 満

提案競技審査委員会 委員長 和田 章

1 . 提案競技実施について

【開催趣旨】公募要項より抜粋

甚大かつ深刻な状態からの復興を急ぐことは当然ですが、しっかりと未来を見据えたより良いまちづくりを進めることが必要です。経済・産業機能の回復も急務ですが、そういった中でも子どもの成育環境という視点が欠落してはなりません。まちの将来は子どもたちに懸かっています。

この国際提案競技による大震災復興プランは、被災された地区に対する“知恵と夢”の支援です。次世代を担う子どもが元気に育つことができるまちをつくるため、子ども達の意見や視点を尊重しながら復興するためのプランやプログラムについて、そのアイデアを世界中から広く求めるものです。

ここで応募された提案は、被災された住民主体によるまちづくりの資料として活用され、日本ユニセフ協会、関係学協会をはじめとする専門家集団がサポートし、速やかな復興、まちづくりの実現への推進力となることが期待されます。

【スケジュール】

公告：5月25日

質疑：6月1日～10日

参加登録：応募期限まで登録可
(当初の登録期間6月1日～24日を変更)

提案書締切：7月15日（カテゴリー4）
8月15日（カテゴリー1、2、3）

【公募要項】 抜粋

9. 提出物

カテゴリーごとに以下に定めた規格以内の紙面に提案をとりまとめてください。

- カテゴリー 1. 12歳以下 (Kids) : A 3版 (420×294mm) 1枚
- カテゴリー 2. 18歳以下 (Junior) : A 3版 (420×294mm) 1枚
- カテゴリー 3. 24歳以下 (Senior) : A 3版 (420×294mm) 2枚以内
- カテゴリー 4. 25歳以上 (Adult) : A 3版 (420×294mm) 4枚以内

12. 審査・懸賞

審査委員は、主催・共催・後援団体所属の研究者・実務者（専門家）、被災地の住民および子どもにより構成します。

各審査委員は、提案された地区のうち一つあるいは複数の地区を担当します。

審査委員およびその関係者も、本提案競技に応募できますが、審査担当地区以外に限ります。

第1次審査においては、本提案競技の成果を取りまとめる応募提案作品集に掲載する提案作品を選定します。審査委員会により、提案内容に著しく問題があると判断した場合、掲載されないことがあります。

第2次審査においては、提案内容により、対象地区毎に Gold（最優秀賞）、Silver（優秀賞）、Bronze（佳作）を選定します。

最優秀賞を受賞された応募者は、年齢（応募カテゴリー）に関係なく、対象地区の復興まちづくり支援のため、マスターアーキテクト、コーディネーター等として、主催者が対象地区の自治体に推薦いたします。

ただし、対象地区により復興に向けての状況や取り組み方針は多様であるため、主催者あるいは対象地区の自治体がアドバイザー就任を保証するものではありません。

2. 応募状況について

東日本大震災復興プラン国際提案競技 応募状況(最終)

カテゴリー	カテゴリー1 (12歳以下)		カテゴリー2 (18歳以下)		カテゴリー3 (24歳以下)		カテゴリー4 (25歳以上)	
提案種別	A	B	A	B	A	B	A	B
応募数	20	13	41	7	31	28	26	21
	33		48		59		47	
合計	187							

カテゴリー	カテゴリー1 (12歳以下)		カテゴリー2 (18歳以下)		カテゴリー3 (24歳以下)		カテゴリー4 (25歳以上)	
提案種別	A	B	A	B	A	B	A	B
応募人数	34	33	99	9	99	78	62	95
	67		108		177		157	
合計	509							

応募者属性

個人	グループ	参加総数	最大構成員	最高齢	最年少
52	135	509名	16名	75歳	4歳

提案地区の詳細(カテゴリーB)

石巻市	8	仙台市	2	岩沼市	1
南三陸町	8	大船渡市	2	南相馬市	1
気仙沼市	8	名取市	2	松島町	1
陸前高田市	6	大熊町	2	山元町	1
東松島市	5	山田町	2	双葉町	1
女川町	5	大槌町	2	複数地区	4
いわき市	3	千葉県旭市	2		
釜石市	3				

3. 審査経過について

第1回審査会 7月30日(水)午後3時より 東京大学医学部3号館にて
7/15応募締切の 카테고리4について、審査採点。

第2回審査会 8月20日(土)午後1時半より 東京大学医学部3号館にて
8/15応募締切の 카테고리1、2、3について、審査採点。
카테고리4についても継続審査。

※第3回審査会までの間に、審査会に出席できない審査員によるウェブサイト上での審査採点を実施した。

第3回審査会 8月28日(日)午後2時より 仙台市中央市民センターにて
全応募作品(카테고리1、2、3、4)187点について、最終審査。

【実行委員会】(順不同、敬称略)

委員長 : 仙田満(こども環境学会代表理事、放送大学教授)

副委員長: 早水研(日本ユニセフ協会専務理事)、
和田章(日本建築学会会長、東京工業大学名誉教授)

委員: 小澤紀美子(こども環境学会会長、東海大学教授)、織田正昭(東京大学教官)、汐見稔幸(白梅学園大学教授)、高橋勝(横浜国立大学教授)、福岡孝純(帝京大学教授)、岸裕司(学校と地域の融合教育研究会副会長)、神谷明宏(聖徳大学准教授)、木下勇(千葉大学教授)、木村歩美(篠原学園専門学校専任講師)、桑原淳司(日本大学教授) 佐久間治(宮城大学准教授)、住田正樹(放送大学教授)、千代章一郎(広島大学准教授)、松本直司(名古屋工業大学教授)、矢田努(愛知産業大学大学院教授)

【審査委員】(順不同、敬称略)

【委員長、副委員長】

委員長: 和田章 東京工業大学名誉教授、日本建築学会会長

副委員長: 早水研 日本ユニセフ協会 専務理事

芦原太郎 芦原太郎建築設計事務所、日本建築家協会会長

小澤紀美子 東海大学教授、東京学芸大学名誉教授、こども環境学会会長

【被災地自治体関係者】

岩手県復興局・副局長: 平井節生

宮城県震災復興・企画部部長: 伊藤和彦

福島県保健福祉部・子育て支援担当理事: 鈴木登三雄

仙台市震災復興本部・本部長: 山田文雄

【専門委員】

石井賢俊	NIDO インダストリアルデザイン所長
上垣内伸一	ウエガイト建築設計事務所
大村虔一	前宮城大学教授・前副学長
織田 正昭	東京大学大学院 医学系研究科発達医科学教室 教官
葛西潔	葛西潔建築設計事務所
金丸弘美	食環境ジャーナリスト
神谷 明宏	聖徳大学 人文学部児童学科 准教授
河原 啓二	姫路市 医監兼生活審議監
木下 勇	千葉大学 園芸学部 緑地・環境学科 教授
木村 歩美	篠原学園専門学校 専任講師
工藤和美	東洋大学理工学部教授
国広ジョージ	国士舘大学教授
久保寺敏郎	久保寺敏郎都市・建築設計事務所
坂牛卓	東京理科大学工学部教授
佐久間 治	宮城大学 事業構想学部デザイン情報学科 准教授
定行 まり子	日本女子大学 家政学部住居学科 教授
佐藤滋	早稲田大学教授
佐藤昌平	佐藤昌平建築研究所
佐野吉彦	安井建築設計事務所 代表取締役社長
島田 隆道	愛知医療学院短期大学リハビリテーション学科 教授
志村勉	山形大学大学院教授
進士五十八	東京農業大学名誉教授、前学長
高橋 勝	横浜国立大学 教育人間科学部 教授
玉田 雅己	"NPOバリエイショナル・バイカルチュラル ろう教育センター 代表
新田新一郎	アトリエ自遊楽校 (有) プランニング開(かい) 代表
福岡 孝純	帝京大学 経済学部経営学科 教授
松本 直司	名古屋工業大学 ながれ領域 教授
宮本 照嗣	市民参加まちづくりパートナー
八木幸二	京都女子大学家政学部教授
矢田努	愛知産業大学大学院教授

4 . 審査について

【審査の視点】

1. 子どもの視点
2. 子どもの成育環境としてのまちづくりの視点
3. 住民主体によるまちづくりの視点
4. 「“知恵と夢”の支援」という視点

【審査項目】

全般的評価

- 総合性：さまざまな問題点に対して、どれだけ総合的に取り組んでいるか？
- 独創性：独創的な提案がされているか？
- 地域性：地域の歴史、産業、社会、生活などの地域性を踏まえた提案か？
- 実現性：現在の技術面や経済面において、実現性のあるものであるか？
- ※障がい者などの弱者の視点、省エネルギーやサステナビリティの視点

専門的評価

- 都市計画・建築計画的側面：都市計画学、建築計画学などの立場からの評価。
- 教育的側面：学校教育、社会教育などの立場からの評価
- 福祉的側面：児童福祉、家庭福祉などの立場からの評価
- 保健・医療的側面：保健、公衆衛生、医療などの立場からの評価

【審査の結果】

応募総数と受賞数						
応募資格 (カテゴリー)	提案対象	応募数	最優秀賞 (Gold)	優秀賞 (Silver)	佳作 (Bronze)	
1. 12歳以下	A	20	33	5	7	21
	B	13				
2. 18歳以下	A	41	48	5	7	36
	B	7				
3. 24歳以下	A	31	59	5	9	45
	B	28				
4. 25歳以上	A	26	47	5	12	30
	B	21				
応募総数	A	118	187	20	35	132
	B	69				
A: 被災地域に共通する提案						
B: 特定地区に対する提案						

5 . 講評

日本はアジアの東側、太平洋の西の端の海に囲まれ、南北に細く連なる美しい島国です。山地が多く 70%以上は森におおわれ、多くの湖があり、100 本以上の急峻な川にはきれいな水が流れ、四季に恵まれ温泉もあり、素晴らしい自然がいっぱいの国です。一方、世界の大きな地震の 10%は日本の近くで起き、毎年のように大きな台風や冬の豪雪に襲われ、何十年に一度、何百年に一度ですが、大きな津波に襲われるなど、自然の猛威も厳しい国です。

この素晴らしい国、そして厳しい自然条件の中に日本人は暮らし、自然への尊敬を持ち、互いに仲良く暮らす人のこころを培ってきました。人は、遠くで起きたこと、遠い昔に起きたことなど、体験していないことへの想いは薄く、今を生きることに一生懸命です。しかし、自然は昔のことを忘れることはなく、同じことを繰り返して起こしています。三陸に大きな津波が襲うのは数十年に一度、仙台の平野に津波が襲うのは約千年に一度といわれますが、これらは間違いなく繰り返されています。

地球の中は熱で溶けた岩でできていて、深いところの高熱の岩は軽く、地用近くの岩は冷めて重くなるため、ヤカンのなかの水のように対流を起こし、地球の表面を複数の地殻が毎年数 cm ずつ移動し、互いに押し合って無理な歪みがたまります。これが何十年、何百年に一度解放されることにより大きな地震が起こるため、地震は繰り返し起こることになります。3月11日のような大地震、大津波は、また来ると思わなければなりません。

大人達に取っても大問題ですが、10年後、20年後に大人になる子ども達にとってはもっと大きな問題です。どこに住んで、どんな家に暮らし、どこでどんな仕事をするか、みんなで考えなければなりません。

津波は「波」と書きますが、台風のとときの波とは違い、沖の海面が南北 500km、東西 200km の範囲で、10m 以上も高くなり、この大量の海水が陸に向かって流れてきます。防波堤や防潮堤で防いでも、その高さを超えると、防潮堤の中も外と同じ海水面になってしまい、大量の海水は陸の奥くまで駆け上がる本当に怖い大量の海水です。

今の子どもが大人になり、次の子どもが大人になり、その次の子どもが暮らしている頃、また大きな津波が来るでしょう。今度は、家や車が流されないように、みんなが尊い命を失わないようなまちを作らなければなりません。

人間には「言葉」があり、「絵」や「文章」を書くこともできます。この度の惨事が二度と起きないように、後世の人々、海外の人々に伝えるのも我々の役目です。

この大震災に対する「子どもにやさしい都市復興コンペ」は、子どもから大人まで多くの人々が日本に生き、暮らすことの意味を考え、また多くの被災地の方々のことを、未来を考える機会となりました。それは被災地の皆さんに対する知恵の支援でしたが、同時にいつかは自分たち自身が、その災害に遭うことを考え、みんな

で「安全に子どもたちが元気に育つ町」をどうつくらねばならないのかという提案になりました。これらは作品集となり、後世の人たち、海外の人々に今回の大震災の記憶とともに伝えられる形となりましょう。

子どもたちの提案にはいつも驚かされます。全くすごいアイデアを出してくれます。そして子どもたちは本当に安全で、楽しい子ども時代を過ごしたいという気持ちがあふれています。若者たちのアイデアにもとても良いものがありました。身近の小さな気付きがあります。おそらく多くの若者たちが被災地を見てくれたのでしょう。その時の悲しみや思いが伝わってきます。大人専門家の提案には現実的ですが、美しい環境をつくろう、そして子どもたちが元気に住み続けて欲しいという思いと夢を提案してくれました。

応募していただいた 500 人もの多くの人々のご努力に感謝したいと思います。多くの被災地では復興計画がつくられつつありますが、ぜひそのすぐれた提案を参考にし、また提案者を活用して、子どもたちが元気に育つ町、世界に誇れる美しい地域に復興されることを希望します。

審査委員長 和田 章（東京工業大学名誉教授、日本建築学会会長）

子どもと高齢者という社会的弱者をどう津波から守るか、という視点は全ての応募作品に共通している。海岸線から離れた高台に、公園や学校、福祉・交流施設などを設ける提案が多数を占めるが、その先に、地域全体の有機的な繋がりや世代を超えた交流、子どもの豊かな成長環境をどのように実現するか、が問われる。この点をしっかり押え、具体性のある提案が高評価を得ているのは、今回のコンペの趣旨に沿ったものと言えよう。一方で、「安全の確保」と「沿岸地域の発展」の両立を図ろうとする観点からは、様々なアイデアが提示され、興味が尽きない。

今回、「子どもの視点」（子どもに対する視点、というより、子どもからの視点）と「子ども参加」ももう一つの重要な要素だが、この点が明快な提案は余り多いとはいえない。「子どもにふさわしい社会」、「子どもに優しい町」は、全ての人にとって住みやすく、次代に展望の持てる社会、という点を是非理解して頂きたいと思う。

審査副委員長 早水研（日本ユニセフ協会 専務理事）

審査をしながら先ず感じたことは、子供たちの応募の中に、防災型のまちづくりに対する意識がしっかり芽生えていることです。防潮堤の建設だけでなく、土地利用の工夫によって、津波による被害を最小限にしようというしっかりとした提案がいくつも見受けられました。

大学生以上の応募の中で、特に優れていると思ったものは、津波の高さを表すため町中に建てる表示板に動物をモチーフにした意匠を取り入れ、子供たちの遊び場

としての機能も合体させたもの、まちづくりそのものの提案では、バンク（土盛り）について、防潮堤としての機能の他に、避難路としての機能、地産地消のエネルギーの通路としての機能を意識して、まちづくりの計画に当てはめたもの等がありました。

審査の過程で、私にとっては斬新なアイデアにたくさん触れさせていただき、今後の仕事のヒントに出来るものと考えております。ありがとうございました。

（岩手県復興局副局長 平井節生）

東日本大震災復興プラン国際提案競技「知恵と夢」の支援一を企画されたこども環境学会に心から敬意を表します。また、500人以上の応募された子供からお年寄りまでの方々に深い感謝の意を宮城県から、まずお伝えしたいと思います。

今、宮城県では、多くの被災地の皆さんが仮設住宅に移り住まれるとともに、県や市町の復興計画に基づき、復興に向けて県民、民間団体、市町村、県、国等が一丸となって取り組んでいます。復興のためには、子どもが元気であること、子どもが家庭や地域を明るくすること、そして未来の復興の担い手は子どもたちであることは、とても重要な視点です。

被災地はいまだに深刻な状況であり、復興には様々な制約があります。その意味では今回提案されたプランとは、その緊急性や実現性などの点でギャップがあるかもしれません。しかし、「知恵と夢」を持ってこそ復興は可能になるものと確信します。すべての提案の中に含まれる「こころ」を力に復興に全力で取り組んでいきます。ありがとうございました。

（宮城県震災復興・企画部長 伊藤和彦）

子どもたちの素直な想いと提案、年齢と比較して大人と間違えるような提案書、専門家の視点できちんとした提案……。カテゴリー別にさまざまな提案を見ることの楽しさと審査をする苦しさを味わいました。

特にカテゴリー1の子どもたちの提案は、生活の中での興味や視点が感じられ、感心しました。カテゴリー4になると、行政で直接関わっている人間として、つい、実現性は？事業費は？誰が負担するのか？などと現実的な視点が顔を出し、厳しい審査になったかもしれません。

復興のまちづくりは、被災した人たちだけではなく、みんなの思いを結集することが必要で、さまざまな提案は必ずしも行政のみならず、さまざまな主体の人たちによって実現できると思っています。今回の国際コンペ応募作品の全てが公開されることは、非常に素晴らしいことであり、きっとどこかで実現する種になるのではないのでしょうか、期待しています。

（仙台市震災復興本部 本部長 山田文雄）

6 . 今後の活動について

子どもが元気に育つまちづくり 東日本大震災復興プラン提案競技 記念講演会

展示会 期間：9月25日（日）～10月2日（日）
9：00～19：30 （土日も開場）
会場：建築博物館（建築会館1F）

プレゼンテーション、作品集披露

9月25日（日）建築会館ホール

13：30～ こども環境学会会長挨拶小澤紀美子

13：45～16：00 受賞者プレゼンテーション

審査講評

審査委員長・日本建築学会会長	和田 章
審査副委員長・日本建築家協会会長	芦原 太郎
審査副委員長・日本ユニセフ協会専務理事	早水 研
審査副委員長・こども環境学会会長	小澤紀美子

16：30～18：00 記念レセプション（建築会館中庭）

以上

※応募作品展示会は、今後、岩手、宮城、福島の各県内において
地元自治体や報道機関のご後援をいただいて開催する予定です。

<Category 1>

Gold Prize (最優秀賞 5点)

No.231 土屋有生 (7歳)

タイトル: 楽しくて安全な町!!

提案種別: (A)



No.225 天野壮悠 (9歳)

タイトル: みんなのしく、みんなつながる、元気なまちづくり

提案種別: (A)



No.212 小林果奈 (11歳)

タイトル: 学校から『元気』を育てよう!!

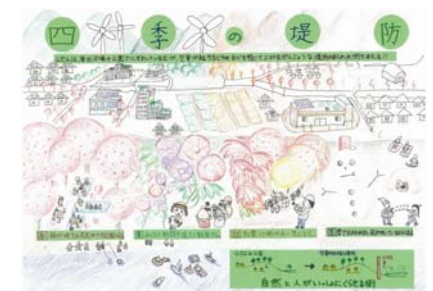
提案種別: (A)



No.39 寺山芽那 (11歳)

タイトル: 四季の堤防

提案種別: (A)



No.169 熊岡笑子 (12歳)・鈴木美卯 (12歳)

タイトル: 子供たちが野菜や果物を一人一種類ずつ作ります。

収穫したらみんなで楽しくいただきます。

提案種別: (B) 石巻市



Silver Prize (優秀賞 7点)

No.49 戸室悠人 (11歳)

タイトル: 公園であそぼう! 笑顔でつながる街づくり
提案種別: (A)



No.73 高塚大夢 (11歳)・市川順一郎 (11歳)・山本華子 (11歳)

チーム名: 高塚グループ
タイトル: 気仙沼市に向けて ー復興プランー
提案種別: (B) 気仙沼市



No.226 天野絢葉 (6歳)

タイトル: うれしい たのしい フルーツのまち
提案種別: (A)



No.53 山崎遥花 (11歳)・今泉星花 (11歳)・竹下恵成 (11歳)

チーム名: 山崎グループ
タイトル: 気仙沼の復興 気仙沼にできないことはない!
提案種別: (B) 気仙沼市



No.65 望月晶 (11歳)

タイトル: ~復興支援プロジェクト~
元気で美しく、自然と共存できる町をつくる
提案種別: (A)



No.59 勝見勇太 (11歳)

タイトル：こんな街になったらいいな～

—すべてが助けあえる！—

提案種別：(A)



No.153 村瀬遥香 (11歳)

チーム名：チームはるか

タイトル：漁業の盛んな三陸海岸へ！

提案種別：(A)



<Category 2>

Gold Prize (最優秀賞 5点)

No.243 東城里奈 (18歳)・蕪木茉莉奈 (18歳)
・香曾我部早紀 (18歳)

タイトル: 春夏秋冬 みんなの村
提案種別: (A)



No.23 渡辺晏夏 (15歳)

タイトル: 復興ストーリー
～被災地から世界で活躍する人材育成を目指して～
提案種別: (A)



No.136 佐藤千春 (18歳)・柿崎佳奈子 (18歳)

タイトル: こども農園をつくろう
提案種別: (A)



No.203-4 鎌田菜央 (14歳)

チーム名: 女川第一中学校
タイトル: 今あるものを大切に町作り
提案種別: (B) 女川町



No.138 鈴木菜月 (18歳)・植松真生 (18歳)

チーム名: 大宮 eighteen
タイトル: 子どものためのまちづくり
—子どもが“ひと”と関わる場をつくろう!—
提案種別: (A)



Silver Prize (優秀賞 7点)

No.186 小川 勇樹 (18歳)・内田 大貴 (17歳)

タイトル：～子ども達が楽しむ復興支援プロジェクト～
提案種別：(A)



No.160 横山侑季 (18歳)・石山葉月 (18歳)・深澤阿友美 (18歳)

チーム名：チームほたる
タイトル：子どもたちから復興を！
提案種別：(A)



No.95 岸惇平 (18歳)・塚本健佑 (18歳)

タイトル：ともだちレター
提案種別：(A)



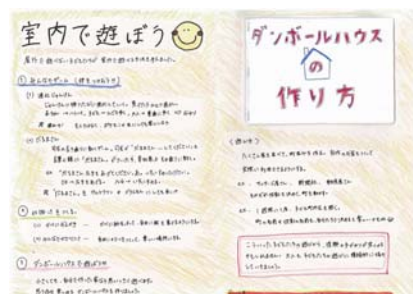
No.148 榎本栄里 (18歳)・本間知美 (18歳)

チーム名：でこぼこフレンズ
タイトル：子どもが元気に育つまちづくり —知恵と夢の支援—
提案種別：(A)



No.146 荒井 千絵美 (18歳)・高野 友佳 (19歳)

チーム名：ヨーグルト
タイトル：室内で遊ぼう
提案種別：(A)



No.207 佐藤咲希 (18歳)・大森絵理香 (18歳)・遠藤知佳 (18歳)

チーム名：マリンキッズ

タイトル：マリンキッズ

提案種別：(A)



No.145 後藤緑 (18歳)・東野あゆみ (18歳)

タイトル：笑顔が集まる防災公園

提案種別：(A)



<Category 3>

Gold Prize (最優秀賞 5点)

No.115 富田正裕・村元萌

チーム名：エム・エム

タイトル：ブレーメンの道しるべ

—動物たちと学ぶ津波の記録—

提案種別：(A)

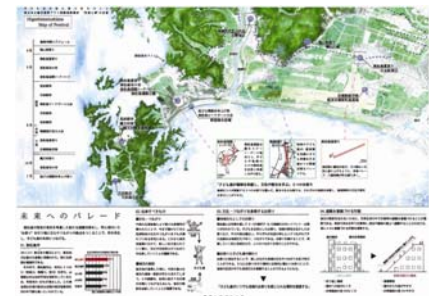


No.44 入江静香・杉本隆典・木村彰宏

チーム名：teamNIT

タイトル：未来へのパレード

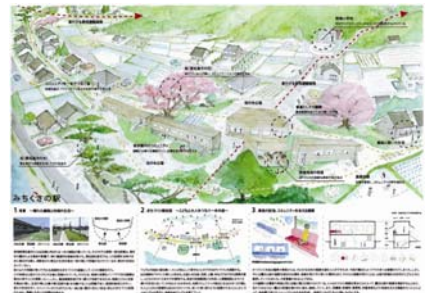
提案種別：(B) 東松島市



No.204 石川翔一・谷英紀

タイトル：みちくさの駅

提案種別：(B) 東松島市



No.64 井上友香理・藤井祐輔・余語悠里佳・石井宏樹

・茂庭竜太・稲葉慧

チーム名：TEAM ジャンボ鮪

タイトル：遊学路 ～遊びが育つかえりみち～

提案種別：(A)



No.201 高橋優太・志村隆・藤致滋

チーム名：東京都市大学新居研究室 B

タイトル：新しい風景

提案種別：(B) 名取市



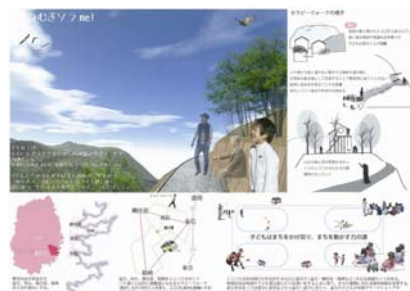
Silver Prize (優秀賞 9点)

**No.84 菊地未来・安部絵理香・皆見明良・椎名明日香・鈴木智子
・藤田一真・保田梨花**

チーム名：関東学院大学中津研究室

タイトル：つむぎソラ net

提案種別：(B) 釜石市



No.218

チーム名：名城大学タニダケン+豊橋技術科学大学建築サークル

タイトル：IGUNE で紡がれるまち

子どもたちがつくる、子どもたちのためのシェルター

提案種別：(A)



No.224 小林和

タイトル：学校のみち、遊ぶみち。

提案種別：(A)



No.52 斎藤純平・河田豊・伊藤公人

チーム名：UgaiYo

タイトル：Creative Yard

提案種別：(A)



No.214 鈴木恵

タイトル：子どもが元気な街づくり 音あそびプロジェクト

音楽で街を元気に

提案種別：(A)

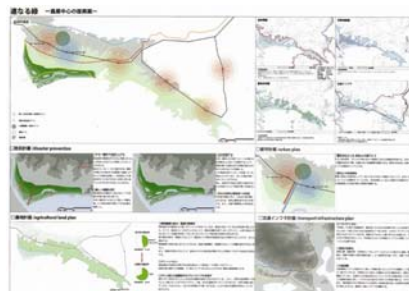


No.216 酒井 隆文・杉山 俊太・永井 沙知

チーム名：東京都市大学 新居研究室 A

タイトル：連なる緑 ―農業中心の復興案―

提案種別：(B) 陸前高田市



No.45 彦坂雄三・深澤睦美・田中雄基

チーム名：team U

タイトル：過去のうつわと未来のハコ

提案種別：(B) 石巻市



No.190 小久保亮佑

タイトル：Canvas Ring

人を映し出すキャンバス／場所と人をつなぎとめるリング

提案種別：(B) 石巻市

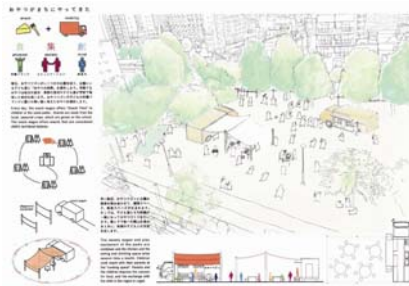


No.33 小池太輔・水落裕樹・木戸大祐・松尾彩花

チーム名：TOIZ

タイトル：おやつがまちにやってきた

提案種別：(A)



<Category 4>

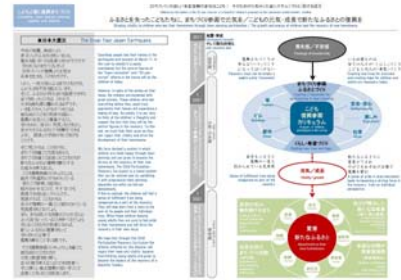
Gold Prize (最優秀賞 5点)

No.106 岡田暁子・岡田慎

チーム名：Team koala

タイトル：ふるさとを失った子どもたちに、まちづくり参画で元気を
／子どもの元気・成長で新たなふるさとの復興を

提案種別：(A)



No.28 松野高久・佐々木省悟・石原智・久住郁子

・濱田絢子・佐藤哲士

タイトル：子どもからお年寄りまでみんなが支えあい、震災復興の
象徴として世界に誇るまち「陸前高田市」の提案

提案種別：(B) 陸前高田市



No.34 松井章一郎・鈴木直樹・荒井拓州・小池秋彦・三好史晃

・蘆田あす佳

チーム名：三菱地所設計

タイトル：小さなタネ、大きな未来

提案種別：(A)



No.18 古藤田茂・町田潤哉・藤浪健二・中村諭樹生・仙田有

タイトル：東松島市

——景観資源・観光資源を生かしたまちづくりによる
地域復興・コミュニティ復元に向けた提案

提案種別：(B) 東松島市



No.124 石原健也・塩原貴洋・伊原武志・遠藤貴大・近藤亜美

・大野宏己・國島真吾・永田信也・星野ミイナ

・森アオイ・中野正也・齊藤大介・内藤賢二

チーム名：プレイグラウンド・サポーターズ

タイトル：海と生きる、川と生きる、森と生きる
—宮城県南三陸町志津川地区復興プラン—
50年後の世界遺産を目指して

提案種別：(B) 南三陸町



Silver Prize (優秀賞 12点)

No.15 松木譲二・小林元・黒川一史・野村朋広・仙田考

タイトル：大船渡市のみんなが元気になる‘故郷の地’を再建する

提案種別：(B) 大船渡市



No.77 小野淳・星龍登・西田正人・三谷勇太

・秋山隆紀・高橋祐平

チーム名：JR 東日本建築設計事務所

タイトル：イーバンク いつも遊ぶ道。いつか逃げる道

提案種別：(B) 大船渡市

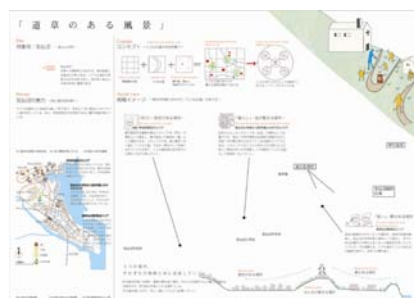


No.89 宮永賛紀・佐藤貴信・杉木勇太・劉超

チーム名：安井建築設計事務所 A チーム

タイトル：「道草のある風景」

提案種別：(B) 気仙沼市



No.80 片山正樹・白井健太郎・久保田恭代

チーム名：KSKA

タイトル：子どもが元気に育つまちづくり「こどもと緑の回廊」



No.19 佐藤文昭・相波幸治・藤井公平・宇佐美洋平

・長谷川一久・佐々木千春

タイトル："ひまわりプロジェクト"

黄色い波で津波と放射能を押し返そう

提案種別：(B) 大熊町

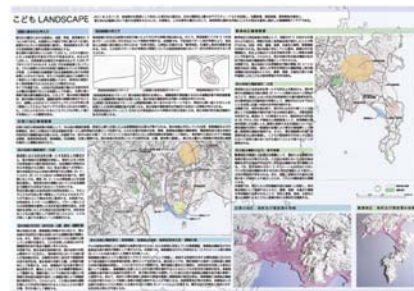


No.17 佐藤栄治・加納一真・黒澤麻里・西城祐基
 ・酒井智季・佐々木秀昭・津釜加奈恵・藤原誠志

チーム名：宇都宮大学建築計画研究室

タイトル：こども LANDSCAPE

提案種別：(B) 南三陸町



No.94 中村文香・保田千晶・筆野望・瀬崎康平・馬場勇輝

チーム名：安井建築設計事務所 B チーム

タイトル：丘ものがたり ―こどもと丘がはぐくむまち―

提案種別：(B) 岩沼市

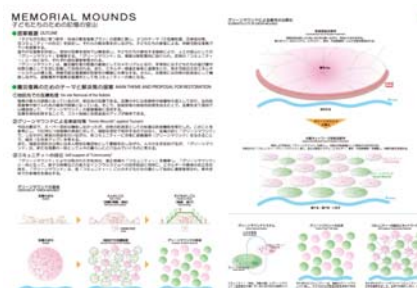


No.26 秋江康弘

タイトル：MEMORIAL MOUNDS

―子どもたちのための記憶の里山―

提案種別：(A)



No.40 村尾修・星知世・古徳風空・川崎拓郎

チーム名：筑波大学 都市防災復興デザイン研究室

タイトル："記憶の街と夢の結晶プロジェクト"

―被災者と子どもたちのための7つの物語―

提案種別：(A)



No.159 三笠友洋・成田佑弥・谷口翔・大西由梨佳

・宮脇毅・武富俊太・重村力

チーム名：神奈川大学重村・三笠建築デザイン研究室

タイトル：Re: base Network

半島ユニットコアと尾根道ネットワークの提案

提案種別：(B) 陸前高田市、釜石市、大船渡市、大槌町、山田町



No.14 鎌田亮・胡内健一・井上宗則・許斐信亮

チーム名：ヤング日本工営（YNK）

タイトル：通学路を軸としたまちづくり

提案種別：(A)



No.109 水野卓・岩間和美・瀬野智成・長場伸介

・平野亜紀子・永村綾子

チーム名：株式会社URリンケージ

タイトル：にじいろプロジェクト

提案種別：(A)

